

令和５年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計					事業主体	21300000	教育委員事 学校教育課		
大事業	A1	6つのまちづくり宣言	健康増進	款項目	09	教育費	01	教育総務費	02	事務局費	
		目指す姿	生涯健康で、元気に生きる！	K P I	健康寿命の延伸 健康増進に積極的に取り組んでいる人の割合				目標値	(男性)81.00歳(女性)86.00歳 70.0%	
中事業	03	主要な取り組み	発達支援は、早期発見、早期医療								
小事業	04	発達支援事業		目標年度	令和6年度						

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	集団適応が難しい子、学習の定着や文字の読み書きが苦手な子が増加している。美濃加茂市の小中学校では、通常学級にも発達障がいのある児童生徒が約6%在籍しており、家庭や幼保こども園・学校など生活の中で困っている子ども本人、保護者、先生がいる。				
	事業目的	(1)対象 ・0歳～成人期の困り感を持つ児(者)とその保護者、またその関係機関(関係幼保小中高等学校) (2)目的 ・乳幼児期から児童学童期の相談支援体制の確立と乳幼児からの一貫した支援体制の確立				
	事業概要	本事業は、フロム0歳プラン2の「学校が楽しい！」具現に向けて、特に困り感を持つ子どもたちとその保護者を支援するためのものである。 9ヵ月～10ヵ月あそびの教室(健康課事業への支援1回/月) ・発達支援対象児スクリーニング、育児支援(発達の確認と関わり方の教授) ・公私立保育園公開保育参加(全クラス) ・発達支援対象児早期発見と支援内容検討、発達相談・巡回相談対象児の見守り ・あじさい発達相談(随時) ・保護者対象の発達相談と学校との連携・支援内容の検討、保護者の障がい理解 ・巡回発達相談(幼保1回/月 小中1回/学期) ・園や学校を対象とした相談事業(対象児の読み取り・支援方法の検討・見守り)				
	事業費(千円)	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	1,570	1,157	1,284	1,594	1,665
	決算額	900	563	1,164	1,374	
	年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)	2,200 / 0				

アウト プ ット	活動指標(単位)	R02	R03	R04	R05	R06
	あじさい発達相談件数 巡回発達相談件数 夏季あじさい子育て相談人数 臨床心理士による知能検査件数の合計	目標値	250	250	250	250
		実績値	210	306	370	390

アウト カ ム	K P I (単位)	R02	R03	R04	R05	R06
	各相談事業での支援対象児スクリーニング人数と支援対象件数	目標値	250	250	250	250
		実績値	210	306	370	390



実 績	実 績	・あじさい発達相談...全117件 ・巡回発達相談...全190件 ・夏季あじさい子育て相談会...42件 ・臨床心理士による知能検査...25件 ・公開保育へ参加 ・相談窓口周知のためのあじさい発達相談リーフレットの配布・活用
	効 果	困り感を解消するために、保護者や先生に話を聞き、実際の場(園・学校)での様子を見て子どもの得意不得意や困っていることの要因を見つけ、適した支援方法を伝えることで、困り感の解消・減少につながっている。個別的教育支援計画を作成し、次の学年・学校へ引き継ぐことで、生活の場が変わっても一貫した支援を行うことができる。



評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	保健センターでの健診、幼保こども園や学校への定期的な相談、リーフレットやホームページでの発信から相談窓口が周知されてきたため、相談件数が増加した。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	カナリヤの家、健康課、福祉課、子育て支援課、こども未来課とも連携して、相談に対応している。
	実績からR06年度の事業の方向性	リーフレット配布で発達窓口があることを知り、定期的な相談の場を設けたりすることを引き続き行うことで、困り感のある子や保護者、先生などが一人で抱え込むことがないように支援体制を整え、見守っていく。

令和５年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計						事業主体	21300000	教育委員事 学校教育課		
大事業	A1	6つのまちづくり宣言	健康増進	款項目	09	教育費		01	教育総務費		02	事務局費
		目指す姿	生涯健康で、元気に生きる！	K P I	健康寿命の延伸 健康増進に積極的に取り組んでいる人の割合					目標値	(男性)81.00歳(女性)86.00歳 70.0%	
中事業	03	主要な取り組み	発達支援は、早期発見、早期医療									
小事業	05	教育支援事業		目標年度	令和6年度							



イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	集団で適応できない、細かい作業がうまくできない、集中が続かない、学習の定着が難しいなど、支援が必要な児童生徒が増加している。 学校の一斉指導の中だけでなく、一人一人の発達に合わせた学びの場や個別での支援を行うために、支援学級や通級指導教室という環境や適した教材・教具を整備することが大切である。				
	事業目的	(1) 対象 ・教育支援委員 ・市特別支援連携協議会員 ・市内の小中学校の特別支援学級、特別支援等通級教室 (2) 目的 ・円滑な教育支援の実施や特別支援教育の充実の為				
	事業概要	本事業は、フロム0歳プラン2の「学校が楽しい！」具現に向けて、困り感を持つ子どもに対して、よりよい教育環境の下で教育が受けられるよう適切な判定を行ったり、学校生活・学習環境の充実を図るものである。 ・児童一人一人の障害の状況に応じた教育支援の実施 ・新設、増級する特別支援学級、特別支援通級教室への備品及び学習教材の購入 ・各特別支援学級、特別支援等通級教室への備品及び学習教材の追加購入				
	事業費(千円)	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	183	1,435	1,023	1,290	1,254
	決算額	83	1,384	1,018	1,255	
	年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)	242 / 0				



アウト プ ット	活動指標(単位)	R02	R03	R04	R05	R06
	教育支援委員会の開催(年3回) と判定部会の開催(年8回)	目標値	11	11	11	11
		実績値	11	11	11	



アウト カ ム	K P I (単位)	R02	R03	R04	R05	R06
	児童生徒が落ち着いて学習に取り組むことができるよう環境が整備された学級(クラス)	目標値	41	42	43	60
		実績値	41	42	59	57

実
績

効
果



評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	定められている判定会議を前年度から変更なく開催することができたため、現状維持となっている。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	特別支援学級や通級指導教室で力をつけ、通常学級での学びに移る児童生徒が多かったため、前年度よりクラス数が減少した。
	実績からR06年度の 事業の方向性	教育支援委員会・特別支援連携協議会と判定部会の開催を引き続き行い、一人一人の発達に合わせた学びの場を協議していく。また、個別の支援に合った教材教具の購入や環境整備を行う。

令和５年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計					事業主体	21300000	教育委員事 学校教育課		
大事業	B1	6つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	09	教育費	01	教育総務費		02	事務局費
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	K P I	生まれる赤ちゃんの人数（年間） 女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合				目標値	500人 40.0%	
中事業	02	主要な取り組み	チャレンジ、自分で学べる教育支援								
小事業	06	科学のふしぎ解決学習推進事業		目標年度	令和6年度						

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	「学校が楽しい」の具現に向け、小中学生の段階から自然の不思議に興味・関心をもち生きる力の素地を育成する必要がある。 若者の理科離れを防ぐためにも、豊かな体験学習は必須である。				
	事業目的	(1) 対象 ・各小中学校児童生徒、保護者 (2) 目的 ・普段、学校の授業では体験できない実験や専門家の話を聞き、児童生徒の科学への興味関心を高める。 ・自ら解決しようとする探究心を高め、解決方法を学ばせる。 ・より発展的な学習や他領域への学習へと学びの意欲をつなぐ。				
	事業概要	本事業は、フロム0歳プラン2の「学校が楽しい！」の具現に向けて、自然・科学分野での体験学習等を意図的に行い、児童生徒が一層自然の不思議に興味・関心を持ち、生きる力の素地をつくるためのものである。 ・学校の授業では体験できない実験や専門家による講演会 ・校外での科学分野の体験活動				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	4,304	8,332	8,177	4,590	5,761
	決算額	3,472	6,182	7,505	4,508	
	年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）	40 / 30				

アウト プ ット	活動指標（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	事業を実施している小中学校数	目標値			11	11
		実績値			10	

アウト カ ム	K P I（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	生活習慣アンケート「学校の授業は、楽しいですか」当てはまる、どちらかと言えば当てはまると答えた児童生徒の割合（％）	目標値			90	90
		実績値			87	



実
績

実 績	・小学校9校、中学校1校で本事業の補助金を利用した活動を実施した。コロナ禍の影響による活動内容の変更はあったが、各学校におけるサイエンス学習、サイエンスワールドでの学習等、実施できた。
効 果	各学校ごとに豊かな体験学習を計画・実施している。 各種の体験学習は、子供の「学校が楽しい」という意識につながっている。



評
価
分
析

活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	小学校9校、中学校1校の計10校で実施できた。それぞれの学校の活動内容についての情報共有等を行いながら、未実施校にも実施を促していく必要がある。
K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	本事業は体験を重視した活動であるため、本事業に特化すれば目標は達成できていると推察されるが、学校における日常の授業も含めると未達となる。学校内での授業においても、授業が楽しいと思えるような授業や活動を推進していく必要がある。
実績からR06年度の 事業の方向性	今後も「学校が楽しい！」の具現に向けて、自然・科学分野での体験学習等を意図的に行い、児童生徒が一層自然の不思議に興味・関心を持ち、生きる力の素地の育成に努める。 令和4年度は名古屋市科学館の見学を全小中学校で行っていたが、令和5年度は廃止となった。令和6年度は再度活動の見直しを行い、学校の必要性に応じて事業に組み込んでいく。

令和５年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計					事業主体	21300000	教育委員事 学校教育課		
大事業	B1	6つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	09	教育費	01	教育総務費		02	事務局費
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	K P I	生まれる赤ちゃんの人数（年間） 女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合				目標値	500人 40.0%	
中事業	02	主要な取り組み	チャレンジ、自分で学べる教育支援								
小事業	07	フロム0歳プラン推進事業		目標年度	令和6年度						

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	第2次美濃加茂市教育振興基本計画（フロム0歳プラン）においては、3本柱「学校改革・改善」「ロングスパン教育（0歳から18歳）」「面による指導」を大切にしている。学校においては、より特色ある学校づくりを行っていくことで、学校が楽しいと答えられる子を育成していくことを大切にしており、本事業は、その基盤づくりとなるものである。				
	事業目的	（１）対象 ・全児童生徒 （２） ・フロム0歳プラン2における3本柱「学校改革・改善」「ロングスパン教育」「面による指導」の具現 ・「自己にきびしく、人にやさしい、心身ともにたくましい子ども」の育成				
	事業概要	本事業は、フロム0歳プラン2の「学校が楽しい！」の具現に向けて、各学校がそれぞれ特色ある教育活動を推進することによって、学校教育の充実を図るものである。 ・F - 0 特色ある学校づくり補助金 ・学校教育の方針と重点の作成等				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	11,075	11,472	11,186	11,224	11,349
	決算額	10,490	11,299	11,129	11,057	
	年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）	50 / 50				

アウト プット	活動指標（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	本事業の補助金による活動実施率 （対予算額：％）	目標値	100	100	100	100	100
		実績値	80	100	100	100	

アウト カム	K P I（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	「特色ある学校づくり」の報告に 対する教育委員評価B以上の率	目標値	100	100	100	100	100
		実績値	80	90	90	90	



実
績

実績	・あじさい賞表彰（科学社会科作品、児童会活動等） ・特色ある学校づくり補助金交付 小中学校 11校で特色ある学校づくりを実施 （坪内逍遙の学習、学力向上の取組、一輪車活動 等） ・補助金額：11校で11,000,000円
効果	フロム0歳プラン2の「学校が楽しい！」の具現に向けて、各学校がそれぞれ地域を踏まえての特色ある教育活動を推進することができた。このことにより、学校教育のさらなる充実を図ることができ、「自己にきびしく、人にやさしい、心身ともにたくましい子ども」の育成に効果があった。



評
価
分
析

活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	学校の特色づくりの活動を中心として、一部活動内容の変更をしながらも、地域とのつながりを築きながらの活動を実施し、目標値を達成できた。
K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	地域との連携を図りながら、学校の特色づくりのための活動を行ってきたが、人とのつながりを築くことにおいて、新型コロナウイルスの影響があり、活動制限があったため。
実績からR06年度の 事業の方向性	活動の目的を明確にし、令和6年度も引き続き、各学校における特色ある教育活動を推進していく。

令和５年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計					事業主体	21300000	教育委員事 学校教育課		
大事業	B1	6つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	09	教育費	01	教育総務費		02	事務局費
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	K P I	生まれる赤ちゃんの人数（年間） 女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合					目標値	500人 40.0%
中事業	02	主要な取り組み	チャレンジ、自分で学べる教育支援								
小事業	08	学外講師派遣推進事業			目標年度	令和6年度					

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	各学校が特色のある学校づくりを実施するためには、地域の人材の協力は欠かせない。また、学校では指導しきれないことも、地域の専門家等を生かすことで、子ども達が地域の良さを知り、地域を学びながら成長していくことが学校教育の充実には必要不可欠と考える。				
	事業目的	(1) 対象 ・市内小中児童生徒 (2) 目的 ・開かれた学校」づくり、臨場感のある学習や活動のために外部の講師・指導者を派遣				
	事業概要	本事業は、フロム0歳プラン2の3本柱の1つ「面による指導」を充実し、外部人材を十分に活用して学校教育の充実を図るものである。 ・学習や体験活動、部活動に対する、外部人材の教育力の活用				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額 決算額	1,248 843	1,200 992	1,200 1,121	840 818	1,248
	年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)	30 / 100				

アウト プ ット	活動指標（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	学校教育活動への学外講師派遣率 (対予算：%)	目標値	100	100	100	100	100
		実績値	70	85	90	92	

アウト カ ム	K P I（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	学外講師による学習や活動の児童生徒の満足度（%）	目標値	95	95	95	95	95
		実績値	90	90	93.1	95	



実 績	実 績	小学校 ・米づくり指導 ・歯科学習指導 ・音楽・合唱指導 ・家庭科・ミシン指導 等で実施 中学校 ・部活指導（吹奏楽部） ・進路学習 等で実施
	効 果	各学校が特色のある学校づくりを実施するためには、地域の人材の協力は欠かせない。また、学校では指導しきれないことも、地域の専門家等を生かすことで、子ども達が地域の良さを知り、地域を学びながら成長していくことが学校教育の充実には必要不可欠と考える。本事業によって子ども達は安心できる学びの場が確保されるとともに、主体的に学びに向かうことができた。



評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	ほぼ予定通りのに講師を派遣することができたが、一部講師との予定が合わず実施できなかった。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	地域の人材を十分に活用して、「開かれた学校」づくり、臨場感のある学習や活動のために外部の講師・指導者を招き、学校教育の充実を図っている。このことにより、子ども達はより専門的な立場にある方々からの効果的な教育を受けることができた。
	実績からR06年度の事業の方向性	特色ある学校づくりをより一層推進していくとともに、地域人材の活用について積極的に検討し事業を活用していくよう働きかけていく。必要に応じて校長会や教頭会においても依頼をしていく。

令和５年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計					事業主体	21300000	教育委員事 学校教育課		
大事業	B1	6つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	09	教育費	01	教育総務費	02	事務局費	
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	K P I	生まれる赤ちゃんの人数（年間） 女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合				目標値	500人 40.0%	
中事業	02	主要な取り組み	チャレンジ、自分で学べる教育支援								
小事業	09	英語教育推進事業		目標年度	令和6年度						

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	在留外国人、外国人児童生徒が年々増加している状況の下で、本市は多文化共生事業を推進しているが、小学校から異国の文化を理解し尊重する態度の育成すること、小学校及び中学校の英語教育の充実を図ると共に、児童生徒のコミュニケーション能力を高め、外国語の背景にある文化に対する理解を深めることが必要である。				
	事業目的	（１）対象（誰、何を対象にしていますか） ・市内小中学校児童生徒 （２）目的（具体的な事業のやり方、手順） ・コミュニケーション能力の育成し、グローバルに活躍する健やかな人材の育成 ・英語や外国文化に対する興味関心の喚起 ・外国の文化や習慣等に積極的に触れようとする態度の育成 ・英語検定3級程度の合格者が増加				
	事業概要	児童生徒が生き生きとコミュニケーションを図り、能力を高めるための事業である。 ・小学校の外国語及び外国語活動に伴う教材の整備 ・小学校5・6年生外国語におけるネイティブスピーカーによる英語指導 ・小学校1年～4年外国語活動における英語活動支援員による英語指導 ・中学校英語授業におけるネイティブスピーカーによる英語指導 ・中学校3年生における英検ⅠＢＡの実施				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	22,058	21,560	21,470	19,823	19,790
	決算額	21,473	21,501	21,425	19,705	
	年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）	70 / 740				

アウト プ ット	活動指標（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	生徒が英語を好きといえる授業づくり （「英語が好き」と回答する生徒の割合％）	目標値			50	50
		実績値			54	

アウト カ ム	K P I（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	英検ⅠＢＡ３級程度の生徒の割合（％）	目標値	47	48	49	50
		実績値	49	36	51	56



実 績	実 績	・中学校3年生における英語検定（英検ⅠＢＡ）を実施した英検3級程以上は約56％である。 ・小学校にはEAS（イングリッシュアクティビティサポーター：英語活動支援員）を8名配置し、年間約160日の勤務の中で市内小学校の授業支援を行っている。 ・4名のALTをすべての小学校5・6年生と中学校に2名ずつ配置し、ネイティブスピーカーによる英語指導を行った。
	効 果	・外国語によるコミュニケーション能力の育成 ・外国語の背景にある文化に対する関心・理解 ・中学校3年生における英検3級程度の力



評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	令和5年度からALT派遣業者が新しくなり、学校へ派遣されるALTが変わった。そのALTと市費で任用しているEASと合同研修会を年5回実施し、美濃加茂市の英語教育について共通理解を図る機会を設けた。また、派遣業社から授業づくりにおける専門的な指導を受けたり、一緒に教材研究を行ったりしたことが、授業改善の1つとなり、児童生徒の英語好きにつながったと考えられる。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	令和5年度実施のアンケートでは、「英語は好き」と答えた生徒の割合は53.6％となっている。その教科が好きという思いは、生徒の主体的な学びにつながり、学力の定着につながっている。そのため、英検ⅠＢＡ3級程度の力をつけることができた。
	実績からR06年度の 事業の方向性	英語に対して意欲的に取り組むことが学力の向上につながる。そこで、「英語を好き」と回答できる生徒を増やしていくことが大切。EASとALTとの合同研修会や英語教育推進委員会等によって「生徒が英語を好きといえる授業づくり」を目指し、授業の在り方、指導方法、教材の工夫改善などを行っていく。

令和５年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計					事業主体	21300000	教育委員事 学校教育課		
大事業	B1	6つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	09	教育費	01	教育総務費		03	教育センター費
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	K P I	生まれる赤ちゃんの人数（年間） 女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合				目標値	500人 40.0%	
中事業	02	主要な取り組み	チャレンジ、自分で学べる教育支援								
小事業	10	教育相談・適応指導教室推進事業		目標年度	令和6年度						

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	近年増加傾向にあり、複雑化・多様化する不登校児童生徒に対応した「あじさい教室」（適応指導教室）の工夫ある運営や、指導にあたるスタッフの指導力の向上、教育カウンセラーの活用に努める必要がある。				
	事業目的	（１）対象 ・不登校児童生徒及び学校での集団生活に不適応な児童生徒、保護者及び学校職員 （２）目的 ・社会適応能力の回復、自己肯定感の高まり、学校復帰後の学力の向上 ・通室者が増加している適応指導教室（あじさい教室）の教育環境の向上				
	事業概要	本事業は、フロム0歳プラン2「学校が楽しい！」具現に向けて、不登校児童生徒の学校復帰に向けた教育相談・適応指導の充実を図るものである。 ・学校での集団生活への不適応児童生徒に対する教育相談・適応指導 ・自主性、社会性を育む体験活動の実践 ・学習意欲を喚起する個の実態、状況に応じた学習指導				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	333	330	330	419	488
	決算額	309	232	272	348	
	年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）	1,794 / 798				

アウト プ ット	活動指標（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	不登校解消に向けた「あじさい教室」通室を含む相談（見学含む）件数（人）	目標値			70	80
		実績値			81	

アウト カ ム	K P I（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	「あじさい教室」通室を通して学校復帰（含む高校進学）した児童生徒の割合（％）	目標値	70	70	70	70
		実績値	53	53	56	58



実 績	実 績	・保護者との懇談、関係学校の教育相談担当との打ち合わせが充実できた。 ・通室児童生徒21名。うち、学校への復帰につながる動きができていた児童生徒7名、高校進学希望者5名。 ・「あじさい教室」の活動として、里山体験や遠足、野菜作り、調理実習等の活動を実施した。季節行事の餅つきや七夕なども実施している。 ・学習指導については、タブレット端末や学習プリントの活用を進め、個別の状況に応じた学習を推進できた。
	効 果	児童生徒と関わる保護者、教員、相談員が打ち合わせを通して共通理解を深め、共通の意識や方法で対応することができた。それが、児童生徒の心の安定を生み出し、学校への通学への意欲向上や高校進学への希望が高まることにつながった。



評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	学校と教育センターとの連携を図り、学校から親さんへの働きかけができたため、あじさい教室に見学・通室する児童生徒が増加した。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	学校行事への参加を切り口に、学校復帰（学校へ行く回数が増えた）した児童生徒が増加した。また、中学3年生が多く在籍しており、ほぼ全員が進学できたため、割合が増加している
	実績からR06年度の事業の方向性	前年度に引き続き、学校と教育センターとの連携を図り、不登校や不適応状況にある児童生徒の情報の共有を図るとともに、教育相談活動の充実を図り、あじさい教室や学校の相談室への通室を促す支援を継続する。また、「あじさい教室」に通室する児童生徒の学習支援や自己肯定感を高めることができる体験活動や運営の充実を図る。さらに、困り感をもつ保護者へのサポート体制も手厚くできるよう学校での教育相談業務や教育センターの活動の充実を図る。

令和５年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計					事業主体	21300000	教育委員事 学校教育課		
大事業	B1	6つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	09	教育費	01	教育総務費		02	事務局費
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	K P I	生まれる赤ちゃんの人数（年間） 女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合				目標値	500人 40.0%	
中事業	02	主要な取り組み	チャレンジ、自分で学べる教育支援								
小事業	11	情報教育推進事業		目標年度	令和6年度						

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	誰にとっても、職業生活、学校での学習、家庭生活など、あらゆる活動において、コンピュータなどの情報機器やサービスと、それらによってもたらされる情報とを適切に選択・活用して問題を解決していくことが不可欠な社会が到来しつつある。美濃加茂市の児童生徒においても、この情報社会の中で心身ともに健やかに生きる力を身に付ける必要があり、学校現場では、校務支援・授業改革・情報セキュリティ向上など校務の効率化を推進する必要がある。				
	事業目的	(1) 対象 ・市内小中学校の児童生徒及び教職員 (2) 目的 ・児童生徒が情報リテラシーを身に付けるとともに情報社会の中で心身ともに健やかに生きる力を身に付ける。 ・校務支援・授業改革・情報セキュリティ向上を図るとともに校務の効率化を推進する。				
	事業概要	本事業は、フロム0歳プラン2の3本柱の一つである「学校の改革・改善」分野で情報機器やソフトウェアを選定・配置し、情報機器を用いた授業を推進するとともに、児童生徒の情報活用能力を高めることがねらいである。 ・文部科学省が推進するGIGA構想によって一人一台端末が整備され、また通信の高速化によって可能となった日常的なICT教育の中で「わかる・できる・楽しい授業」づくりを推進する。 ・ICT教育を推進する上で必要なデジタル教材およびソフトウェアの充実を図る。 ・プログラミング教育教材を整備して小学校プログラミング教育を推進する。				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	393,149	44,437	49,794	63,155	79,259
	決算額	389,567	44,228	48,327	60,569	
	年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)	670 / 1,794				

アウト プ ット	活 動 指 標 (単位)		R02	R03	R04	R05	R06
	ICT活用にかかわる研修への教職 員の参加率%	目標値	85	87	89	90	92
		実績値	85	100	100	90	

アウト カ ム	K P I（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	児童生徒がタブレットを使って毎日学習する活用頻度の割合（％）	目標値	50	50	50	50
		実績値	23	33	37	



実
績



評
価
分
析

実 績	・スマート連絡帳（学校と保護者をつなぐデジタル連絡帳）の導入 ・セキュリティUSBの更新 ・統合型校務支援システム「Te - Comp@ss」の購入 ・授業支援ソフト「SKYMENU Cloud」の購入 ・学習支援ソフト「ラインズ eライブラリ」の購入 ・ICT支援（業者による） 市内小中学校6時間ずつ 内容：授業支援・学習支援ソフトの活用の職員研修、授業用教材研究支援
効 果	令和5年度に行ったアンケートでは、94.5%の教職員がタブレットを活用して授業を行っている。児童生徒が毎日使う頻度については、年々上昇しており、特に小学校で高くなっている。

活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	タブレットやソフトウェアの具体的な操作方法や活用の仕方などを研修としている。児童生徒へ還元するという教職員の意識の高さが要因にある。
K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	児童生徒がタブレットを使用する機会はインターネットを用いた調べ学習やカメラ機能を使って写真をとることが中心となっている。また教師のタブレット活用は、プロジェクターを使った拡大提示するときとなっている。授業支援ソフトを活用については、使用しやすい教科や単元があり、毎日の活用には至っていない。
実績からR06年度の 事業の方向性	学習者用デジタル教科書（英語）が、すべての小学校5、6年生と中学校1～3年生に導入されている。昨年度、英語教育推進委員会では「学習者用デジタル教科書の活用」をキーワードの1つとして委員会活動を進めた。太田小学校（11月）、西中学校（2月）に学習者用デジタル教科書を取り入れた授業研究会を行い、各校へ学びを広げた。また、情報教育推進委員会では、各校の推進委員に活用の働きかけを行った。令和6年度は、デジタル教科書だけでなく授業支援ソフトや学習支援ソフトの活用が増えるように、授業研究会を行ったり、研修機会の提供をしたり取り組んでいきたい。

令和５年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計					事業主体	21300000	教育委員事 学校教育課	
大事業	B1	6つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	09	教育費	01	教育総務費	02	事務局費
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	K P I	生まれる赤ちゃんの人数（年間）				目標値	500人
中事業	02	主要な取り組み	チャレンジ、自分で学べる教育支援		女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合					40.0%
小事業	12	豊かな体験推進事業		目標年度	令和6年度					

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	美濃加茂市の小中学校に在籍していても、他市からの転入児童生徒が多く、美濃加茂市のことをよく理解していない子が多い。またメディアを通じて多くの情報を得ることができる時代だが、実際に体験する機会が減っていたり、費用が掛かるために体験したことがないことも多い。				
	事業目的	(1)対象（誰、何を対象にしていますか） ・各小中学校児童生徒 (2)目的 普段、学校の授業では体験できない体験活動や専門家からの話を聞いたり、自他の生命の尊重について考えたりする機会を設けることにより、夢や志を育む。 また、児童生徒のプログラミング学習、環境学習への意欲、関心の向上。コミュニケーション能力や自己解決能力の向上を図る。				
	事業概要	本事業は「フロム0歳プラン2」の具現に向けて、令和の日本型学校教育の構築を踏まえた指導の充実のもと、「情報教育の充実」「自然や科学等の体験活動の充実」に向けた体験学習等を意図的に行之、自己の個性や可能性を伸ばしながら自己実現を図るためのものである。 ・自然やいきものとのふれあい授業 ・ICTを活用した体験講座				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額				1,094	6,275
	決算額				914	
	年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）	44 / 24				

アウト プ ット	活動指標（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	募集に対する参加者の割合（％）	目標値			72	72
		実績値			65	

アウト カ ム	K P I（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	興味関心が高まり、参加してよかったと回答した参加者の割合（％）	目標値			80	80
		実績値			86	



実
績

実 績	・プログラミング講座を実施し、65名（小学生52名、中学生13名）が参加した。 ・ヤギさんふれあい授業を、小学校7校で実施した。
効 果	プログラミング体験は、最近人気のあるドローンを活用した活動を位置付けたことで、小学生の参加希望が多くあった。中学生は、募集定員を満たすことはなかったが、その分、小学生に振り分けることで可能な限り多くの子どもたちに体験の場を持つことができた。 学校で学んでいるプログラミングの知識を生かして活動したり、初めて出会った子と協力して活動したりすることで、プログラミングの知識だけでなく、他者との協働する力も高めることができた。



評
価
分
析

活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	小学生にとってプログラミングの結果がドローンの動きで確認できる体験は興味関心が高いものであった。そのため、応募者は多数で抽選を行うこととなった。中学生の参加希望者は定員より少なかった。周知は十分であったが、中学生にとって体験内容が魅力的ではなかったが、申し込むことへのハードルが高かったという可能性が考えられる。
K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	学校でプログラミングを学び、もともと興味のある児童の参加が多数であったが、宙に浮かぶドローンにプログラミングが反映される初の体験が大きな喜びとなった。小グループで教え合う活動がコミュニケーションを活性化させたが、ドローンの共有をするにあたり、触れる時間に個人差ができてしまった。
実績からR06年度の 事業の方向性	中学生には、全員にチラシを配布し、WEB上で処理ができるため、中学生も参加申し込みをしやすい方法を採用している。周知方法に問題があるのではなく、年代の発達段階の心理的な特性も参加者が少なくなる要因であると考えられるならば、R6年度の状況から、今後は小学生・中学生という分け方ではなく、入門編・上級編のように分ける等、多くの子ども達が自分のニーズに合った体験ができるようにしていく。

令和5年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計					事業主体	21300000	教育委員事 学校教育課	
大事業	B1	6つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	09	教育費	01	教育総務費	02	事務局費
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	K P I	生まれる赤ちゃんの人数（年間） 女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合				目標値	500人 40.0%
	中事業	02	主要な取り組み		チャレンジ、自分で学べる教育支援					
小事業	13	地域部活動推進事業		目標年度	令和6年度					



イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	学校が担っている休日の部活動を地域で担っていくよう地域移行を進めていく上で、子ども達の指導にあたる指導者の確保が課題となっている。				
	事業目的	(1) 対象 ・市内中学生（保護者クラブ） (2) 目的 ・保護者クラブに対し、運営を補助する支援金（指導者への報酬等）を負担することで、継続的に安定した地域スポーツ（文化）事業を目指す。				
	事業概要	中学生等のスポーツ（文化）環境について、地域単位での活動に積極的に変えていくことにより、子ども達が将来にわたりスポーツ（文化）活動に継続して親しむ機会を確保する。 ・活動の受け皿づくり ・指導者の確保 ・指導者への謝金（報酬） ・活動場所の確保				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
		予算額			4,686	7,314
		決算額			4,022	
年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)		150 / 50				



アウト プ ット	活動指標（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	指導者募集について広報を行った回数（回）	目標値				2	2
		実績値				2	



アウト カ ム	K P I（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	部活動が地域移行した割合（％）	目標値				30	60
		実績値				41	

実
績

効
果



評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	計画的に指導者募集についての広報を行った。				
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	指導者講習会を計画的に実施したことで、保護者クラブで指導することができる指導者が増え、保護者クラブの立ち上げにつながった。				
	実績からR06年度の 事業の方向性	令和6年度も引き続き、指導者講習会実施の広報活動を行い指導者を確保することで、保護者クラブの立ち上げを進め、地域移行を推進していく。				

令和５年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計					事業主体	21300000	教育委員事 学校教育課		
大事業	C1	6つのまちづくり宣言	多文化共生	款項目	09	教育費	01	教育総務費		02	事務局費
		目指す姿	みんなで一歩を踏み出そう！	K P I	外国人市民の高校進学率 多文化共生のまちづくりが進んでいると感じる人の割合				目標値	97.6% 50.0%	
中事業	02	主要な取り組み	外国人児童生徒の教育支援								
小事業	03	のぞみ教室推進事業（定住）		目標年度	令和6年度						

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	外国人児童生徒が日本語や日本文化などがほとんど理解できないまま小中学校に通うことで、学校に適應することが難しく不就学児につながる状況にあった。そのため、外国人児童生徒の増加に伴う圏域小中学校の受け入れ体制の整備および、初期適應指導教室「のぞみ教室」を開設し、初期指導及び日本語指導の充実を図ってきた。 ・外国人児童生徒の増加 ・外国人の定住化、散在化				
	事業目的	（１）対象 ・日本語がほとんど理解できない学齢期の外国人児童生徒 （２）目的 ・日本の学校生活へスムーズに適應できるようにするため。 ・学校生活に必要な日本語や日本の文化を学ぶため。 ・サバイバル日本語を習得し、基礎的・基本的な学力を身に付けるため。				
	事業概要	本事業は、フロム0歳プラン2の「学校が楽しい！」具現に向けて、外国籍児童生徒が小中学校生活に適應し、充実した日々が送れるよう初期適應指導等を実施するものである。 ・市内小中学校への就学を希望する日本語の理解が不十分な児童生徒に対して、日本語や日本の文化、学校生活の基礎について教える。 ・児童生徒が、日本語を身に付け、小中学校に適應することができるよう、初期適應指導教室「のぞみ教室」で指導する。				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	10,318	5,004	5,004	7,955	8,231
	決算額	9,094	4,873	4,833	7,387	
	年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）	1,725 / 836				

アウト プ ット	活動指標（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	のぞみ教室で3～6か月程度で就学できる割合%	目標値	95	95	95	95
		実績値	68	76	72	

アウト カ ム	K P I（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	のぞみ教室に在籍した児童生徒が小学校・中学校に就学後、年度末まで在籍した割合（帰国・転校を除く）	目標値	90	90	90	90
		実績値	100	100	100	



実
績

実 績	・令和５年度は78名の児童生徒が利用した。内訳は以下の通りである。 美濃加茂市民 ・フィリピン47名、バキスタン6名、ブラジル13名、ペルー1名、中国2名、ベトナム1名、日本3名、ボリビア1名、カンボジア1名 坂祝町民 ・フィリピン2名 川辺町民 ・ネパール1名
効 果	・令和５年度は78名の児童生徒がのぞみ教室に通室し、そのうち60名が退室をした。その内8名が帰国・転校・卒業となったが、それ以外の52名は在籍校へ戻り、年度末まで在籍通学した。



評
価
分
析

活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	退室をした60名の児童生徒の内、通室6か月以内が38名、6か月以上が22名である。内訳は以下の通りである。 ・小学生低学年24名（6か月以内20名 6か月以上 4名） ・小学生高学年18名（6か月以内13名 6か月以上 5名） ・中学生 18名（6か月以内 5名 6か月以上13名） 年齢が高いほど退室までの時間がかかる傾向が見られる。これは、小学生に比べ、中学生の学習内容の難易度が高いこと、日常生活の中で日本語での会話する機会が小学生ほど積極的でないことが理由として考えられる。
K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	在籍学校での支援は言うまでもないが、在籍学校へ戻った時の困り感が児童生徒に少ないことが理由にあげられる。それは、のぞみ教室でのサバイバル日本語を習得させる指導や、日本の学校の文化や生活のルールが身に付くように繰り返し行う指導が大きな要因だと考える。 【のぞみ教室を退室した児童生徒の実際の意見】 ・のぞみ教室の先生の指導が厳しいと思うこともあったけど、九九をしっかり覚えることができて、算数の授業で困らなかった。先生に感謝している。
実績からR06年度の 事業の方向性	・令和6年度も継続して、のぞみ教室に通う児童生徒が在籍校へ通学するために必要な基本的な学校生活の習慣を身に付けたり、基礎的な日本語・計算ができるように指導していく。 ・のぞみ教室への通級申し込みの際、教育委員会担当で保護者の願いをヒアリングし、のぞみ教室でできることやできないことを説明していく。